



校報

水糸者

No. 1270

元年度・第129号

パート4

「AI時代に淘汰されない学力」とは

A I時代に淘汰されないための『学力』」についてのシリーズ4号では、前回の例題の解答と人工知能（A I）に淘汰されない学びについて紹介します。

【前号で提示した6つの例題の解答】

【例題1 「係り受け」】

天の川銀河の中心には、太陽の400万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。

⇒天の川銀河の中心にあると推定されているのは（③ブラックホール）である。



【例題2 「照応」】

火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかり、現在も地下には水がある可能性がある。

⇒かつて大量の水があった証拠が見つかっているのは（①火星）である。

【例題3 「同義文判定」】

- ・義経は平氏を追いつめ、ついに壇ノ浦でほろぼした。
- ・平氏は義経に追いつめられ、ついに壇ノ浦でほろぼされた。

⇒この2つの文は（①同じである）



【例題4 「推論」】

エベレストは世界で最も高い山である。

この文に書かれていることが正しい時、次の文に書かれていることは正しいか。

エルブルス山はエベレストより低い。 ⇒（①正しい）

【例題5 「イメージ同定」】

メジャーリーグ選手の出身国の内訳を表す図として適当なものを全て選びなさい。

⇒（正解は②）

【例題6 「具体例同定」】

2で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。

⇒（正解は ②、③、④）



人工知能（AI）を体操の採点に取り入れるというニュースも昨年流れました。産業界だけでなくスポーツの世界でも急速に人工知能（AI）が導入され始めています。

人工知能（AI）は万能で、人間の全て能力を凌駕するよう思われがちですが、先に示した6つの例題文のうち、何と4つの例題文が人工知能（AI）にとって苦手や不可能分野であるそうです。

人工知能（AI）の得意分野

- ・AIの正答率が80%を超える…「係り受け」
- ・急速に研究が進んでいる…「照 応」

人工知能（AI）の不得意分野

- ・AIにとってまだ難しい分野…「同義文判定」
- ・AIにとって全く困難な分野
…「具体例同定」、「推論」、「イメージ同定」

「義経は平氏を追いつめ、ついに壇ノ浦でほろぼした。」と「平氏は義経に追いつめられ、ついに壇ノ浦でほろぼされた。」といったような、人間にとって区別が容易な『同義文判定』（2つの違った文章を読み比べて意味が同じかどうかを判定する）文章を、どうして人工知能（AI）は混乱するのでしょうか…。

それは、「同義文判定」文章の場合、出てくる単語がほぼ同じであるために、現時点の人工知能（AI）には内容区別まではまだ難しいとされています。現在と近未来の人工知能（AI）は、表層的理解はできるが、中身はほとんど理解できていないこととなります。

*下の文章の正解は①です。その理由が答えられたら「読解力」は心配ないかも知れません。ご家庭でも試してみてください。（48大学の6千人の大学生の平均正答率は64.5%の問題です）

問：公園に子どもたちが集まっています。男の子も女の子もいます。よく観察すると、帽子をかぶっていない子どもはみんな女の子です。

そして、スニーカーを履いてる男の子は一人もいません。

上の文章から確実に正しいと言えるのは、①～③のうち、どれですか。

- ①男の子はみんな帽子をかぶっている。
- ②帽子をかぶっている女の子はいない。
- ③帽子をかぶっていて、しかもスニーカーを履いている子どもは、一人もいない。



「同義文判定」や「推論」などの深い読解ができない場合、読むのは苦ではないが内容はほとんど理解できていないということが起こります。ドリルと暗記で定期テストを乗り切れることはできるが、レポートの意味やテストの意味は理解できません。

そのことは人工知能（AI）と似ていて、近い将来人工知能（AI）に代替されやすい能力といえます。小学生のうちからデジタルドリルに励んで「勉強した気分」となり、テストでいい点数をとってしまうと、それが「成功体験」となってしまう、「読解力」が不足のまま成長する恐れもあります。旧帝国大学といわれる7大学（東京大、京都大、東北大、大阪大、名古屋大、北海道大、九州大）に一人でも進学者を出している全国の高校と、リーディング・スキル・テスト（RST）能力とは高い相関関係がある事もわかっています。

「読解力」を身に付けないとその先の成績は伸びないことや、求められるのは「意味を理解する人材」、将来生き残る仕事はコミュニケーション能力や理解力が求められる仕事と柔軟な判断力が求められる肉体労働、つまり「高度な読解力と常識、加えて人間らしい柔軟な判断が求められる分野」であることがこの本にはびっしりと書かれています。



「人間らしい判断」は、『非認知能力』にも結び付いていくものです。